



学校だより

やってみよう自分から もっと生かそう学んだことを ともに生きよう感謝の心で

令和6年7月号

学校HP

横浜市立谷本小学校



体験を通して身に付けたい大切な力

副校長 松井 康仁

梅雨入り宣言が6月23日に出されましたが、ここ数日は例年以上の暑さを感じます。学校で体育や水泳があるときには、WBGTを計測し実施判断の一つとして活用しています。ここ数年の水泳学習においては、「暑すぎて水泳中止になりました。」ということがあり、これまでは考えられなかった事態が起こっています。さらに今年度4月から、熱中症特別警戒アラートの運用が始まりました。これまでの熱中症警戒アラートよりもさらに高い熱中症の危険を示すもので、このアラートが出たときには「いのちを守る行動をとるように」という指示が出ています。学校では、体育だけでなく登下校や教育活動全体において注意喚起をしていくようにします。夏場の運動や野外の活動については、ご家庭でも十分子どもたちに水分補給や休憩などをしっかりとるようにお伝えいただければと思います。

先日、5年生の体験学習に引率同行しました。道志村で本格的な稲作体験、林業体験等を行い、日常では経験できないたくさんの貴重な体験を行ってきました。5年生の子どもたちは、初めて経験することに興味をもったり、驚いたりしながら一生懸命取り組むことができました。キャンプファイヤーでは学年全体で肩を組んで「パプリカ」を合唱し、一体となって盛り上がりました。

初めて経験することが多い体験学習では、うまくいかないこともたくさんあります。しかし、失敗をそのままにせず、次の活動に生かすにはどうすればよいかをしっかりと振り返ることで、本当に大切な力は身につくものです。また簡単に答えを求めるのではなく、どのように答えにたどり着くか、その過程こそがとても大切であり、大切にしていきたい力でもあります。

一方で、宿泊学習でいつも痛感させられるのは生活力の大切さです。次の日いったい何が必要なのか考えて荷物を整理したり、どうしたらよいか常に意識して行動したりする力です。体験学習になると一つの忘れものが危険を招いてしまうことがあり、せっかくの貴重な体験が制限されてしまうこともあります。私自身も学生になって家族を離れて生活するようになって初めて生活力の大切さを実感し、「これまでいかに周りにいる人たちに支えられていたか。」ということに気づかされました。もちろんこの生活力は一朝一夕には身につけません。小学校から少しずつ身に付けていく必要があります。体験学習では、このような力も身に付けられるよう指導しています。

さて、いよいよ夏休みに入ります。普段では時間がなくてできなかったことも、この夏休みでは、興味や関心のあることにじっくり向かうことができます。また、たくさんの体験をして成長する時期でもあります。答えを簡単に求めるだけでなく、どう考えたか、どのように取り組んだかを大切にしてほしいと思います。また、自分の生活を見直し、生活力を高めてほしいと思います。私自身も振り返ってみたいと思います。

